

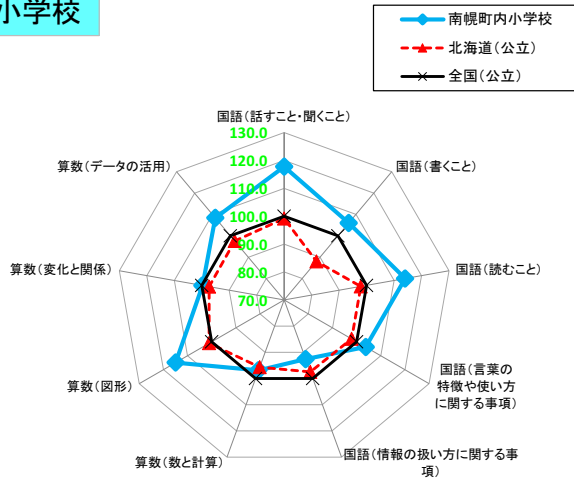
■南幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:46人）（中学校数:1校、生徒数:28人）

【教科全体の状況】

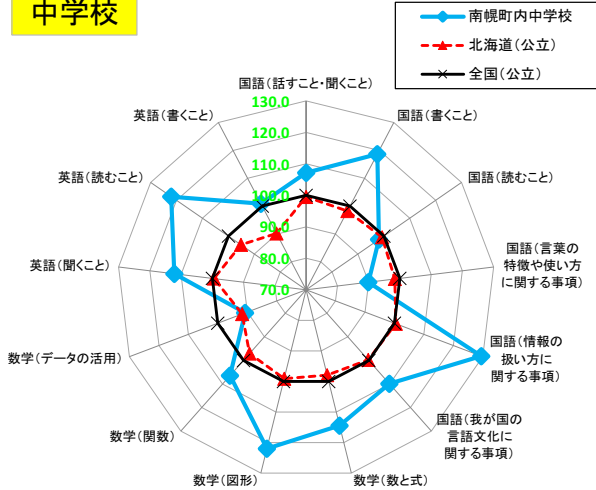
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	73	75
算数・数学	65	55
英語	-	52

小学校

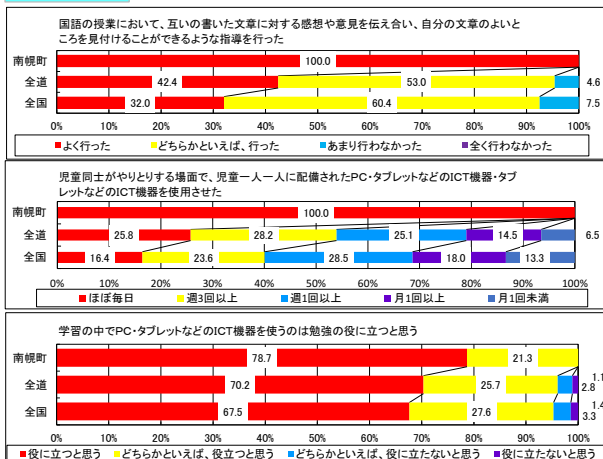


中学校

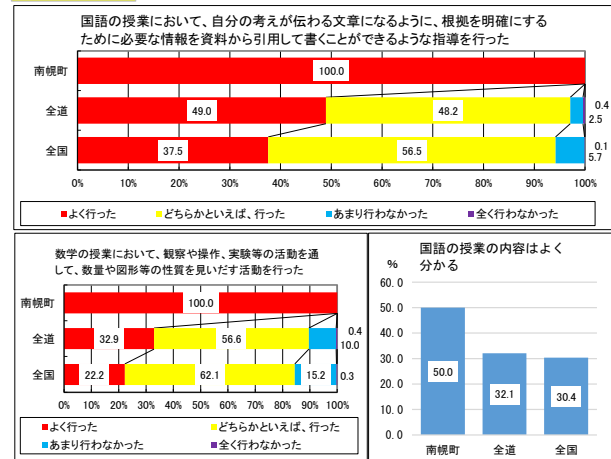


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
 国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
 児童同士がやり取りする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレット端末などのICT機器を使用させたことにより、学習の中でPC・タブレット端末などのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
 国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導をよく行ったことにより、国語の「書くこと」及び「情報の扱い方に関する事項」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回るとともに、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
 数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動をよく行ったことにより、数学の3領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【南幌町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校における基礎学力向上プラン等に基づく組織的な取組の推進
- ◎ 児童生徒の一人一人の状況に応じた指導や支援体制づくりに向けた特別支援教育学習指導員の配置
- ◎ きめ細やかな指導に向けた少人数学級のための町独自による教員加配

令和5年度 全国学力・学習状況調査

南幌町の調査結果の概要

令和5年12月
南幌町教育委員会

令和5年度全国学力・学習状況調査
南幌町の調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図り、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。更に、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒（原則）

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

①教科に関する調査

ア 小学校 国語・算数

中学校 国語・数学・英語

イ 出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、調査問題では記述式の問題を一定割合で導入。

②質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」という。）を実施。

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施。

4 調査方式

悉皆調査（対象の全児童生徒）

5 調査期日

令和5年4月18日（火）

6 調査を実施した学校・児童生徒数

国語	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	964,177	892,738
北海道（公立）	35,645	34,256
南幌町	46	28

算数・数学	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	964,350	893,114
北海道（公立）	35,657	34,259
南幌町	46	28

英語	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）		893,528
北海道（公立）		34,242
南幌町		28

II 結果考察

令和5年4月18日に実施された全国学力・学習状況調査結果を、北海道教育委員会で作成した「分析ツール北海道版」や令和4年度データなどを活用し、南幌町教育委員会として分析した結果を以下のとおり報告します。

1 調査結果について

全国学力・学習状況調査の正答率一覧を以下の表に示しています。

小学校		教科及び正答率（%）		
		国語	算数	英語
令和4年度 正答率	南幌町	59.0%	67.0%	
	全道	64.0%	61.0%	
	全国	65.6%	63.2%	
令和5年度 正答率	南幌町	73.0%	65.0%	
	全道	66.0%	61.0%	
	全国	67.2%	62.5%	

中学校		教科及び正答率 (%)		
		国 語	数 学	英 語
令和4年度 正 答 率	南幌町	64.0%	42.0%	
	全 道	69.0%	49.0%	
	全 国	69.0%	51.4%	
令和5年度 正 答 率	南幌町	75.0%	55.0%	52.0%
	全 道	69.0%	49.0%	44.0%
	全 国	69.8%	51.0%	45.6%

【概要】

「英語」調査については、令和元年度より追加され今回で2回目の実施である。

【結果考察】

北海道教育庁で作成した「分析ツール北海道版」を活用した分析内容。

1) 小学校

①国 語

正答率としては、全道・全国を5～7%程度上回る結果となり、前回調査と比較しても14%上昇している。

前回調査における全道・全国の正答率は今年度と差ほど変化がないことから、全体的に学力の向上が見られる。

②算 数

正答率としては、全道・全国を2～4%程度上回る結果となっているが、本町との前回調査と比較すると2%下降している。

全道・全国の正答率をみると前回調査と差ほど変化はないが、今年度の本町の正答率が昨年と比較して2%下降していることを踏まえると、算数が苦手な児童が多かったのではと推察する。

2) 中学校

①国 語

正答率としては、全道・全国を5～6%程度上回る結果となり、前回調査と比較して11%上昇している。

前回調査における全道・全国の正答率は今年度と比較しても差ほど差異がないことから、中学生においても全体的に学力の向上が見られる。

②数 学

正答率としては、全道・全国を4～6%程度上回る結果となり、前回調査と比較しても13%と上昇している。

前回調査における全道・全国の正答率は今年度と比較しても差異がないことから、国語と同様に数学においても全体的に学力の向上が見られる。

2 正答割合について

全国学力・学習状況調査における全教科の正答割合を算出した結果を次の表に示しています。

学校種	年 度	受験 人数	正 答 割 合			
			70%以上	50%以上 ～70%未満	30%以上 ～50%未満	30%未満
小学校	令和4年度	36人	41.6% (15人)	27.8% (10人)	27.8% (10人)	2.8% (1人)
	令和5年度	46人	58.7% (27人)	23.9% (11人)	8.7% (4人)	8.7% (4人)
	前回対比	10	17.1%	△3.9%	△19.1%	5.9%
中学校	令和4年度	49人	26.5% (13人)	30.6% (15人)	28.6% (14人)	14.3% (7人)
	令和5年度	28人	39.3% (11人)	39.3% (11人)	21.4% (6人)	0% (0人)
	前回対比	△21	12.8%	8.7%	△7.2%	△14.3%

調査年度で調査する児童生徒が異なるため、単純に年度ごとの比較をすることは出来ませんが、小・中学校ともに前回調査より、70%以上の正答率が上昇している結果となっています。

3 児童生徒質問紙調査と学力の相関分析について

全国学力・学習状況調査の中で児童生徒質問紙調査（小学校59項目・中学校72項目）が実施されており、学力に起因すると思われる以下7項目の質問に対する回答内容について前回調査と比較した分析を行いました。

【質問紙調査から抽出した7項目】

① 家庭学習時間（質問17）

小学校	全くしない	30分以内	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上
令和4年度	5.6% (2人)	22.2% (8人)	33.3% (12人)	27.8% (10人)	8.3% (3人)	2.8% (1人)
令和5年度	2.1% (1人)	25.5% (12人)	42.6% (20人)	25.5% (12人)	4.3% (2人)	0% (0人)
前回対比	△3.5%	3.3%	9.3%	△2.3%	△4.0%	△2.8%

小学校前回調査との比較では、1時間以上の割合が全体の29.8%となっており9.1%減少しているが、30分以内及び30～1時間の割合が上昇していることから家庭学習の定着がみられ正答率の上昇に繋がったと推察されます。

中学校	全くしない	30分以内	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上
令和4年度	12.2% (6人)	10.2% (5人)	28.6% (14人)	32.7% (16人)	14.3% (7人)	2.0% (1人)
令和5年度	10.7% (3人)	14.3% (4人)	21.4% (6人)	28.6% (8人)	25.0% (7人)	0% (0人)
前回対比	△1.5%	4.1%	△7.2%	△4.1%	10.7%	△2.0%

中学校前回調査との比較では、全くしないの割合が減少、2～3時間以内の割合が上昇していることから、中学校も家庭学習の定着がみられ正答率の上昇に繋がったと推察されます。

②計画を立てた学習（質問16）

小学校	全くしていない	あまりしていない	ときどきしている	よくしている
令和4年度	8.3% (3人)	11.1% (4人)	55.6% (20人)	25.0% (9人)
令和5年度	10.6% (5人)	27.7% (13人)	53.2% (25人)	8.5% (4人)
前回対比	2.3%	16.6%	△2.4%	△16.5%

小学校前回調査と比較すると、計画的に学習をよくしている及びときどきしてるの割合が全体の61.7%となっており、△18.9%減少していることから、正答割合30%未満の割合が上昇したと推察されます。

中学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえばしている	よくしている
令和4年度	18.4% (9人)	16.3% (8人)	53.1% (26人)	12.2% (6人)
令和5年度	3.6% (1人)	21.4% (6人)	60.7% (17人)	14.3% (4人)
前回対比	△14.8%	5.1%	7.6%	2.1%

中学校前回調査と比較すると、どちらかといえばしている、しているの割合が全体の75.0%となっており、9.7%上昇していることから今回の正答率の上昇に繋がったと推察されます。

③読書時間（質問20）

小学校	全くしない	10分以内	10～30分	30分～1時間	1～2時間	2時間以上
令和4年度	38.8% (14人)	16.7% (6人)	5.6% (2人)	16.7% (6人)	11.1% (4人)	11.1% (4人)
令和5年度	40.4% (19人)	14.9% (7人)	19.1% (9人)	8.5% (4人)	6.4% (3人)	10.6% (5人)
前回対比	1.6%	△1.8%	13.5%	△8.2%	△4.7%	△0.5%

小学校は、全体の正答率は上昇しているが、情報の扱い方に関する問題及び漢字の記載の正答率が全国・全道より低かったことから、30分以上読書をする児童の割合が全体の25.5%と△13.4%減少していることが要因と思われる。

中学校	全くしない	10分以内	10～30分	30分～1時間	1～2時間	2時間以上
令和4年度	61.2% (30人)	12.2% (6人)	10.2% (5人)	12.2% (6人)	2.1% (1人)	2.1% (1人)
令和5年度	28.6% (8人)	14.3% (4人)	17.9% (5人)	28.6% (8人)	10.7% (3人)	0% (0人)
前回対比	△32.6%	2.1%	7.7%	16.4%	8.6%	△2.1%

中学校前回調査と比較すると、読書を全くしない生徒の割合が28.6%で32.6%減少しており、10分～1時間以内の割合をみても24.1%上昇していることから今回の正答率の上昇に繋がったと推察される。

④就寝（質問2）【質問内容：毎日、同じ時間に就寝しているか】

小学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和4年度	2.8% (1人)	5.6% (2人)	38.9% (14人)	52.7% (19人)
令和5年度	4.3% (2人)	6.4% (3人)	31.9% (15人)	57.4% (27人)
前回対比	1.5%	0.8%	△7.0%	4.7%

中学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和4年度	0.0% (0人)	14.3% (7人)	40.8% (20人)	44.9% (22人)
令和5年度	0.0% (0人)	14.3% (4人)	53.6% (15人)	32.1% (9人)
前回対比	0%	0%	12.8%	△12.8%

⑤起床（質問3）【質問内容：毎日、同じ時間に起床しているか】

小学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和4年度	2.8% (1人)	5.6% (2人)	27.8% (10人)	63.8% (23人)
令和5年度	0% (0人)	8.5% (4人)	27.7% (13人)	63.8% (30人)
前回対比	△2.8%	2.9%	△0.1%	0%

中学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和4年度	0.0% (0人)	10.2% (5人)	24.5% (12人)	65.3% (32人)
令和5年度	0.0% (0人)	7.1% (2人)	46.4% (13人)	46.4% (13人)
前回対比	0%	△3.1%	21.9%	△18.9%

⑥朝食（質問1）【質問内容：毎日、朝食を食べているか】

小学校	全く食べていない	あまり食べてない	どちらかといえば	食べている
令和4年度	0.0% (0人)	2.8% (1人)	5.6% (2人)	91.6% (33人)
令和5年度	4.3% (2人)	4.3% (2人)	8.5% (4人)	83.0% (39人)
前回対比	4.3%	1.5%	2.9%	△8.6%

中学校	全く食べていない	あまり食べてない	どちらかといえば	食べている
令和4年度	2.0% (1人)	2.0% (1人)	6.1% (3人)	89.9% (44人)
令和5年度	0% (0人)	3.6% (1人)	7.1% (2人)	89.3% (25人)
前回対比	△0.2%	1.6%	1.0%	△0.6%

④～⑥については「早寝・早起き・朝ご飯」運動が定着されているかどうか確認できる質問となっています。

小・中学校ともに、「同じ時間に寝る（起きる）」「朝食を食べている」児童生徒の割合が「どちらかといえば」を含めても、おおむね規則正しい生活を送るためのリズムが定着していると推察しますが、小・中学校とも一部の児童生徒が朝食をあまり食べていない割合が多くなっていることから、引き続き「早寝・早起き・朝ご飯」運動を推進していく必要があると思われます。

⑦自己肯定感（質問4）【質問内容：自分には、よいところがあると思う】

小学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
令和4年度	8.3% (3人)	19.4% (7人)	47.3% (17人)	25.0% (9人)
令和5年度	2.1% (1人)	14.9% (7人)	34.0% (16人)	48.9% (23人)
前回対比	△6.2%	△4.5%	△13.3%	23.9

小学校前回調査と比較すると、当てはまる及びどちらかという当てはまると思っている児童の割合が全体の82.9%で10.6%増加している。

中学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
令和4年度	6.1% (3人)	22.4% (11人)	30.6% (15人)	40.9% (20人)
令和5年度	3.6% (1人)	21.4% (6人)	53.6% (15人)	21.4% (6人)
前回対比	△2.5%	△1.0%	23.0%	△19.5%

中学校前回調査と比較すると、当てはまる及びどちらかという当てはまると思っている児童の割合が全体の75.0%で3.5%減少しているが、当時に当てはまらない及びどちらかといえば当てはまらないも減少しているため、自己肯定感が高まっていると推察されます。

【総括】

児童生徒の正答率を上げていくため、家庭学習時間の定着と計画的な学習を行うことが必要であることが改めて確認できた。

また、教科別において国語では、小学校は情報の扱い方に関する事項（原因と結果などの理解力、情報と情報との関係や図における語句と語句との関係）で中学校では言葉の特徴の使い方や読むこと（文章を比較したり、文章の要旨の把握、文章から知識と経験と結び付け、自分の考えを広めたり深める）が全国・全道ともに平均正答率が下回っていることから、これらを重点に取り組む必要があると考える。

小学校算数及び中学校数学では各領域とも全国・全道を下回ることは見られなかった。

このことから、南幌町教育委員会としては、北海道教育委員会が作成する「時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える」を参照に、「なんぼろ学力向上メッセージ」を作成し、保護者に配布し家庭内でも話し合いを持つ機会の創出を図っていきたい。

また、公設学習塾の取り組みについても併せて周知を行い、更なる学力の向上に繋げていきたいと考えている。